

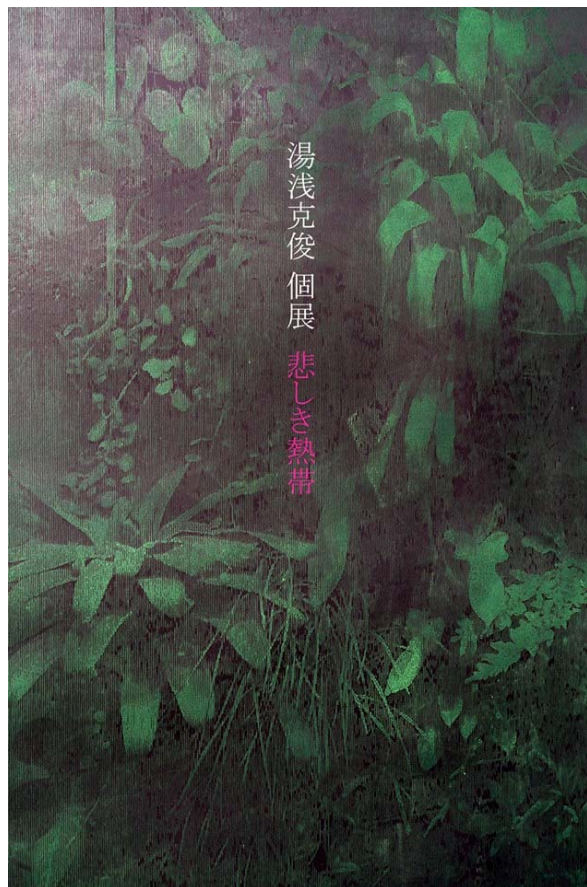
湯浅克俊 個展 「悲しき熱帯」

Solo Exhibition by Katsutoshi Yuasa

2015.4.4 (Sat) —25 (sat)

日、月 休廊 Closed on Sunday, Monday

12:00 — 19:00



Illuminated Nature

2014

177 × 122 cm

Oil-based woodcut on hand-painted paper



BAR YUKI-SIS 4.4 (Sat) 19:30~

「これまでの話とこれからの話」湯浅克俊 x 寺嶋由起 (YUKI-SIS)

★入場料はいいませんが、ドリンクをお求めください。ビルの施錠上、21時までにご入場ください。

YUKI-SIS

東京都中央区日本橋本町 3-2-12 日本橋小楼 202 03-5542-1669

info@yuki-sis.com <http://yuki-sis.com>

3-2-12- #202, Nihonbashi Honcho, Chuoh-ku, Tokyo

103-0023, JAPAN +81(0)3 5542 1669



Tristes tropiques #1, #2/ 2015/ 80cm x 80cm/ Oil-based woodcut on hand-painted paper

YUKI-SIS では、4月4日（土） - 25日（土）湯浅克俊展「悲しき熱帯」を開催いたします。

1978年生まれの湯浅克俊は、武蔵野美術大学油絵学科版画専攻卒業後、渡英。2005年ロイヤルカレッジオブアート（ロンドン）修士課程終了。日本をはじめイギリス、ドイツなどを中心に活動し、すでに欧米での個展も多く経験、数々の世界的なアートフェアなどにも出品。日本の伝統芸術の一つともいえる木版画と、デジタル技術とが融合した湯浅の作品には、現在、世界中の注目が集まりつつあります。昨年参加した、横浜美術館「魅惑のニッポン木版画」では、12,000枚もの水性木版からできた3×10メートルにも及ぶ巨大な作品を展示し、大きな話題となりました。



湯浅の作る木版作品のモチーフには、自らが撮影した写真、もしくはインターネットなどからの画像が使われています。デジタル加工した画像を版木に転写後、すべて手作業で彫っていきます。大きな作品では、彫りの作業だけで約30-40日を費やすといえます。長時間の制作過程で、作品の被写体には作家の思想や独自の解釈が混じり、最後に自らの手でバレンを使って摺り上げた時初めて、その姿を現します。

先日海外のインタビュー取材の際、「観るものに、作品を通して何を伝えたいか？」との問いに、湯浅は「世界をゆっくりと見つめてほしい」と答えています。めまぐるしく変化、消費される現代において、ある現象にゆっくりと時間をかけて観ること、思考すること。それは、湯浅が制作に費やす時間の中で交わされる対象物との対話そのものです。

今回の展覧会では、フランスの社会人類学者クロード・レヴィ＝ストロースの著書「悲しき熱帯」を展覧会タイトルに引用。「世界は人間なしに始まったし、人間なしに終わるだろう」

常に過去の歴史と現代との時間軸を考慮しながら、社会現象、思想を木版という技法に落とし込む湯浅克俊。木版の新たな可能性を味わうとともに、彼の作品に込められた密かなメッセージを読み取っていただけたらと思います。



Human lights

2015

100cm x 80cm

Water-based Woodcut on Paper



Whereof one cannot speak, thereof one must be silent

2014

65.5x 50.5 cm

Oil-based and water-based Woodcut on Paper

ED. 10